

株式会社竹村製作所

Pick Up!

平成25年度

事業計画名

不凍水抜栓の構造変更による生産工程の効率化と製品の高品質化

概要

不凍水抜栓の設計変更による部品点数の削減により、加工時間や加工スペースの改善を行い、生産の効率化と顧客が使いやすい製品作りを進め、鋳造から完成品まで一貫生産できる当社の強みを生かした高効率高品質なものづくりを実現する。

分類

＜対象類型＞ ものづくり技術
精密加工
＜事業類型＞ 一般型
試作開発＋設備投資

成果

不凍水抜栓の設計変更による部品点数の削減（3点→1点）により、加工時間や加工スペースの改善を行った。

今後年間ベースで6,000万円以上の製造原価削減が見込まれ経営に寄与する見込みである。



平成26年度

事業計画名

水質評価サービスを加えた水処理装置の包括提案による顧客満足度向上

概要

排水の再利用など多様化する原水に対して迅速かつ精度の高い水質評価サービスを提供し、最適な水処理装置の提案と定期メンテナンスを通じて安心・安全の提供と顧客満足度を向上させ、水環境装置事業のさらなる拡大を図る。

平成27年度

事業計画名

62年の殻を破った鋳物部品加工の無人化・見える化による高度生産体制実現

概要

基幹部品である鋳物の加工工程において、最新の切削機械とロボットを導入し連携させることで、段取り時間の短縮と加工の無人化・遠隔監視を実現して、多品種小ロットのニーズに対応できる高度な生産体制を実現する。

好機逸すべからず

「ものづくり補助金」採択企業を訪ねて

株式会社竹村製作所（長野市）

「使う人の身になって」の理念を追求する
シェアトップクラスの不凍栓総合メーカー。

顧客の声を反映したものづくり

不凍栓の総合メーカーとして、北海道と東北6県を中心とする東日本一帯を主要マーケットにトップクラスのシェアを誇る、竹村製作所。

戦後、家業の瀬戸物屋隣に「よろず機械加工業」を興した創業者が、1つのハンドルを回すだけで水道の水が抜ける不凍バルブを発明したのが始まりでした。



不凍水栓柱ユニット「サナンド」

1954年会社設立後、現在地に本社工場を移転し、さまざまな不凍栓を開発。そして57年、水抜栓「MT型防寒止水栓」が盛岡市の指定を受けたのをきっかけに東北各都市に採用され、東北、北海道へと拠点展開を進めていきました。その後、浄水部門（現・水環境装置）を発足。プールなどのろ過装置を開発・製造し、長野県内小中学校の多くで採用されています。

「使う人の身になって」。この創業以来の理念のもと同社が心がけているのは顧客の声をきめ細かくスピーディーに反映したものづくりです。「それを実現しているのが、研究・開発から製造・加工、組立、販売・メンテナンスまでの完全一貫体制」と竹村國彦社長。



本社工場内

本社工場のほか、1万8千坪の鋳物工場（アクアゾーン三水工場）など充実した製造環境がそれを支えています。

西日本への拡大戦略を強化

激しい競争が続く水道業界。同社も体質強化とさらなる発展のため、さまざまな取り組みをしています。

より効率的なものづくりを目指し、営業、製造、技術の各部門が一体となって、年間10万台強を生産する不凍水抜栓（MT2型）の構造を根本的に見

直す活動を展開。平成25年度ものづくり補助金を利用して最新鋭のマシニングセンターを導入し、精度向上、加工時間と作業スペースの削減に取り組み、大幅なコストダウンを実現しています。



最新鋭マシニングセンター

今後は、他製品に水平展開することで、さらなる経営安定化と企業体質強化を目指します。

同社が主要マーケットとする寒冷地は全国世帯数の約15%で、残りの85%は西日本を中心とする非寒冷地域。竹村社長は「さらにシェアを伸ばすため、西日本への拡大戦略を強化していきたい」と力を込めます。寒冷地向けの従来製品ではなく、同社技術を活かした非寒冷地向け高付加価値製品の開発・販売です。



デザイン水栓柱

「カラフルなもの、環境にマッチしたものなどデザインが重要。開発から製造、販売・サービスまで自社で手がけている強みを活かし、最終ユーザーの目に止まる商品を提案していきたいと考えています」



株式会社竹村製作所

代表 代表取締役 竹村國彦
創業 1954（昭和29）年4月
資本金 9,800万円 従業員数 221名
本社 長野市小島127



TEL.026-251-0211 FAX.026-251-0233

事業内容 不凍水抜栓・不凍水栓柱をはじめとする給水器具の製造・販売、学校プールや業務用浴場、噴水などの循環ろ過装置をはじめとする各種浄水装置・水環境装置の製造・販売・メンテナンス